

宗教倫理学会公開講演会

イスラームと自由

日時

2024年3月9日（土） 13:30~15:30

場所

キャンパスプラザ京都 2F ホール

京都市下京区東塩小路町939（京都駅下車徒歩5分）

入場無料・事前申込不要

講師

鎌田繁氏

1951年、東京生まれ。東京大学名誉教授。専門はイスラーム思想、とくにイスラーム神秘思想。『イスラームの深層：「遍在する神」とは何か』（NHKブックス、2015年）、『井筒俊彦の東洋哲学』（澤井義次との共編著、2018年）など著作多数。

司会：澤井義次（研究プロジェクト委員長・天理大学名誉教授）

コメンテーター：小田淑子（元関西大学教授）

問い合わせ 宗教倫理学会事務局 (staffs@jare.jp) <http://www.jare.jp>



イスラームと自由

講演要旨

このislāmというアラビア語自体が（神に）身を委ねる、服従するという意味をもち、イスラームにおける神と人との基本的な関係を示している。これは具体的には主人rabbと奴隷‘abdの関係である。神に対する奴隷性を最大に実現することがムスリムの理想的人間になる。他からの制限や束縛を受けずに自らの思想、感情によって行動することを自由であるとすると、神という絶対他者によって支配されているという人間にどのように自由を考えることができるであろうか、一筋縄では解けないであろう。

イスラームにおいてなにかを論じる場合、クルアーンを核において議論を展開するのがひとつの重要な論法である。クルアーンでは奴隷の身分に対するものとして自由人の言及（牝牛章2:178）があり、また信教の自由の観念につながるようにも思える「宗教に強制はない」（牝牛章2:256）という句がある。このようないくつかの語句を註釈者の施す読みを通して、イスラームのなかで自由に類する観念がどのように理解されたかを考えてみたい。

